

## 2 古代～中世のふくち

福智町内では、押型文土器片が発見されていることにより約8000年前頃には人々が暮らしていたことがわかります。また、金属で作った道具が約2000年前頃に登場するまでは石や鹿の角や動物の骨などが道具に利用されていました。そして、この地域では食料の確保は農業を中心に行われてきました。食生活に使用された器は、素焼きの土器から、登窯で高温に焼かれた須恵器などに変化していきますが、一部の裕福な人たちの間では12世紀頃から、釉薬のかかった中国からの輸入陶磁器が使用されはじめました。



伊方小学校遺跡  
 今から2000年以上前の  
 弥生時代前期から中期  
 にかけての遺跡。

### 鉄製の鋤先(スサヅ)

今と違い全部が鉄ではなく、力のかかる部分のみ鉄でできています。

### 伊方小学校遺跡出土の弥生土器

食材の調理や貯蔵に使われました。今から約2000年前のもので。

### 縄文時代早期の押型文土器

今から8000年位前の福智町でも一番古い土器です。このころから福智町に人が住み始めました。

### 石包丁

稲を刈り取る鎌の役目を果たした石製の道具です。今と違い稲の穂先だけを刈り取っていました。



石包丁の使い方

### 神崎遺跡出土の須恵器(スズキ)

坏身、坏蓋  
 食べ物やお墓へのお供え物を入れる際に使われました。  
 今から約1400年前のもので。

### 紡錘車(ホウスイヤ)

糸をつむぐためにはすみ車の重りとして使われました。



紡錘車の使い方

1. 縦長くない糸織機を以て固らせる
2. 紡錘車の回転で撚りをかける
3. 紡錘車の孔に挿した糸巻き棒に糸を巻き付ける

